

公衆衛生専門家はワクチン接種への躊躇をどう克服できるか？

ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン接種は、女性の子宮頸がんやあらゆる性別の人々における HPV 関連疾患を予防する最も効果的な手段の一つである。にもかかわらず、世界中で多くの人々が依然としてこのワクチン接種に消極的である。

この背景にある理由を理解するため、我々は介護者と思春期の子どもたちの HPV ワクチン接種に関する見解や行動に影響を与える要因について、コクラン定性的エビデンス統合を実施した。

我々の知見は、人々が HPV ワクチン接種に対する立場を表明する際、単に健康上の選好を述べているだけではなく、しばしば自らのアイデンティティや個人的・共同体の価値観を表現し、より広い社会における自らの位置づけを交渉していることを示唆している。ここでは主要な知見を要約し、検討すべき潜在的な示唆を強調する。

知識が全てではない

人々がワクチン接種を拒否する決断をするのは、知識や認識が不足しているためだと頻繁に想定される。しかし、本レビューの結果は、HPV ワクチンに関する知識とその受容との間にはより複雑な関係があることを示唆している。HPV ワクチンに躊躇していた多くの親や思春期の子どもは非常に高度な理解を示していた一方で、ワクチンを受け入れた人々の中にはほとんど知識を持たない者もいた。皮肉なことに、ワクチンに関する生物学的知識の欠如が接種の強い動機となる事例も存在した。例えば、ワクチンが妊娠を防止したり HIV/エイズから保護すると信じている場合などが挙げられる。

社会的規範と道徳的判断が重要

本レビューは、HPV ワクチン接種を形作る可能性のある複数の文脈、プロセス、意味を明らかにした。これには社会的、政治的、経済的、イデオロギー的、道徳的、そして生物学的要因が含まれる。

ワクチンに関する親と思春期の子どもの見解や実践は、思春期、性、性別、子育て、健康に関するより広範な社会文化的信念に影響を受けていた。多くのコミュニティでは、HPV関連感染症は「不道徳な」性的行動（例えば乱交）の概念と結びつけられている。このステイグマにより、ワクチンは不要である、あるいは恥すべきものと感じられることがある。

HPVワクチンに対する見解は、思春期の子どもとその主たる養育者間の複雑な意思決定の力学、および核家族内に存在する性別役割によっても形成された。拡大家族、友人、地域社会の構成員によるワクチンに関する決定や意見も頻繁に影響を及ぼした。

医療システムへの信頼が鍵

重要な要素は、ワクチン接種プログラムの実施を担当する機関や個人に対する信頼の度合いである。多くの環境では、特に政府・学校・公衆衛生当局への不信感が根強い場合、ワクチン決定はより広範な政治的・歴史的問題によって形作られる。さらに、ワクチンプログラムやサービスに関する否定的な経験も決定に重大な役割を果たす可能性がある。例えば、在庫不足・高コスト・情報伝達の不備によりワクチン接種に苦労した経験がある人は、再度試みることに消極的になるかもしれない。

積極的かつ的を絞った行動

HPVワクチン接種の促進は、教育や意識向上だけではありません。HPVワクチン接種の意思決定に影響を与える社会的・文化的障壁に対処するためには、多面的な戦略が必要です。これらの要因は場所、時期、対象集団によって異なります。したがって、HPVワクチン接種の文脈固有の推進要因を理解し、的を絞ることが不可欠です。

介入やプログラムを通じて具体的に何を達成したいのかを検討してください。認知度向上と接種率の向上を目指すのか、それとも科学的リテラシーを構築し、人々が情報に基づいた判断を下せるようにすることが目的か。これらの異なる目標は、HPVワクチン

受容率の向上という単純な結果とは限らない、異なるタイプの介入と潜在的な成果をもたらす可能性がある。

思いやり、共感、そしてコミュニティとの共創

介護者と思春期の子どもが HPV ワクチン接種に対して抱く懸念、そしてそれらが一部を構成するより広範な社会的規範や価値観を理解することが重要である。そのためには、人々の懸念を表明させ、それを否定したり必ずしも正そうとするのではなく、真摯に共感を持って傾聴することが必要となる。対話、関係性、透明性、コミュニティの関与と主体性に焦点を当てた、より広範な信頼構築策を取り入れることも不可欠である。どの個人や機関が潜在的に信頼されているか、あるいは不信感を持たれているか、その理由を理解することは有用だろう。信頼されるコミュニティのリーダーをプログラムの設計や実施に関与させることは、コミュニティの参加を促し障壁を克服するのに役立つ。

ワクチン接種への躊躇を克服するための「特効薬」は存在しません。まず、HPV ワクチン接種の質と利用可能性を妨げている可能性のある構造的およびサービスレベルの問題を特定することから始め、次に、これらの問題に対処する方法を検討することができます。政策立案者や医療専門家は、こうしたより深い影響要因に対処することで、より関連性が高く、受け入れられ、最終的には効果的な方法で、HPV ワクチン接種に対する信頼を強化することができるでしょう。

この記事は、南アフリカ医学研究評議会 (*South African Medical Research Council*) に拠点を置くコクラン・サウスアフリカ (CSA) のサラ・クーパー博士とエブラヒム・サモディエン博士によって執筆されました。CSA は、研究者、専門家、患者、介護者、そして健康に関心のある人々で構成される、世界的な独立組織であるコクラン・ネットワークの一部です。